Kogichi Lab.

LEGOで考える災害に強いまち

2024年11月4日（10時-12時）開催報告

秋晴れに恵まれた祝日の月曜日「LEGOで考える災害に強いまち」を実施しました。今回のテーマは「コミュニケーションができる遊び場づくり」そして「耐震構造について学ぼう」の２本立て。鳥取県や広島市からはるばる来てくださった方、はじめての方、リピーター、生後２ヶ月の赤ちゃん、幼児、小学生、中学生、高校生、大学生、インドネシア、中国、ベトナム、バングラディッシュ等出身の総勢40名の皆様をお迎えし、ワイワイと賑やかで和やかな進行となりました。耐震構造の工作では、法隆寺やスカイツリーに利用されている「心柱」の仕組みをみんなで作り、日本の建築物の耐震基準などについても学びを深めました。

今回、道法さんが初めてファシリテーターを務めましたが、それを見たリピーターの小学生から「次はぼくも前に出て何かやりたい！」と意欲的なコメントが。コミュニティから小さなファシリテーターの誕生に期待したいと思います。次回は2025年3月に開催予定です。

ファシリテーター：道法愛（広島大学大学院人間社会科学研究科修了生）
話題提供：松澤咲陽子・大内深雪・NGUYEN KIM HOANG・朱彤・ISLAMI INDAH
運営協力：鈴木拓馬・呂博一・宋安迪・袁水瑪
専門家協力：髙田光雄（京都大学名誉教授・京都美術工芸大学教授）
コーディネーター：小口悠紀子（広島大学大学院人間社会科学研究科日本語教育）
お問い合わせ先：koguchiy@hiroshima-u.ac.jp

＊本活動は「マツダ財団研究助成（青少年健全育成関係）」の助成を受けて実施しています

Kogichi Lab.

LEGOで考える災害に強いまち

ーLEGO×やさしい日本語で語りつぐ西日本豪雨ー

2026年3月26日（10時-12時　福山通運小丸賑わいパビリオン）　開催報告

　2025年度２度目の「LEGOで考える災害に強いまち」を東広島市（広島大学, 福山通運小丸賑わいパビリオン）で実施しました。今回、初めての平日開催となりましたが、春休み中の小学生から大学生を中心に、インドネシア、中国、ベトナム、キルギス等出身の留学生も合わせて総勢30名の皆様をお迎えしました。

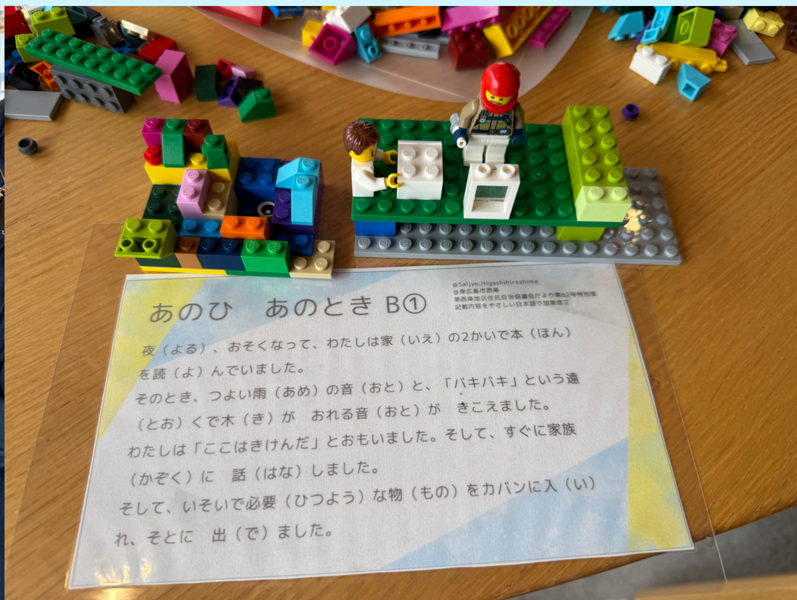
　今回のメインテーマは「LEGO×やさしい日本語で語りつぐ西日本豪雨」。

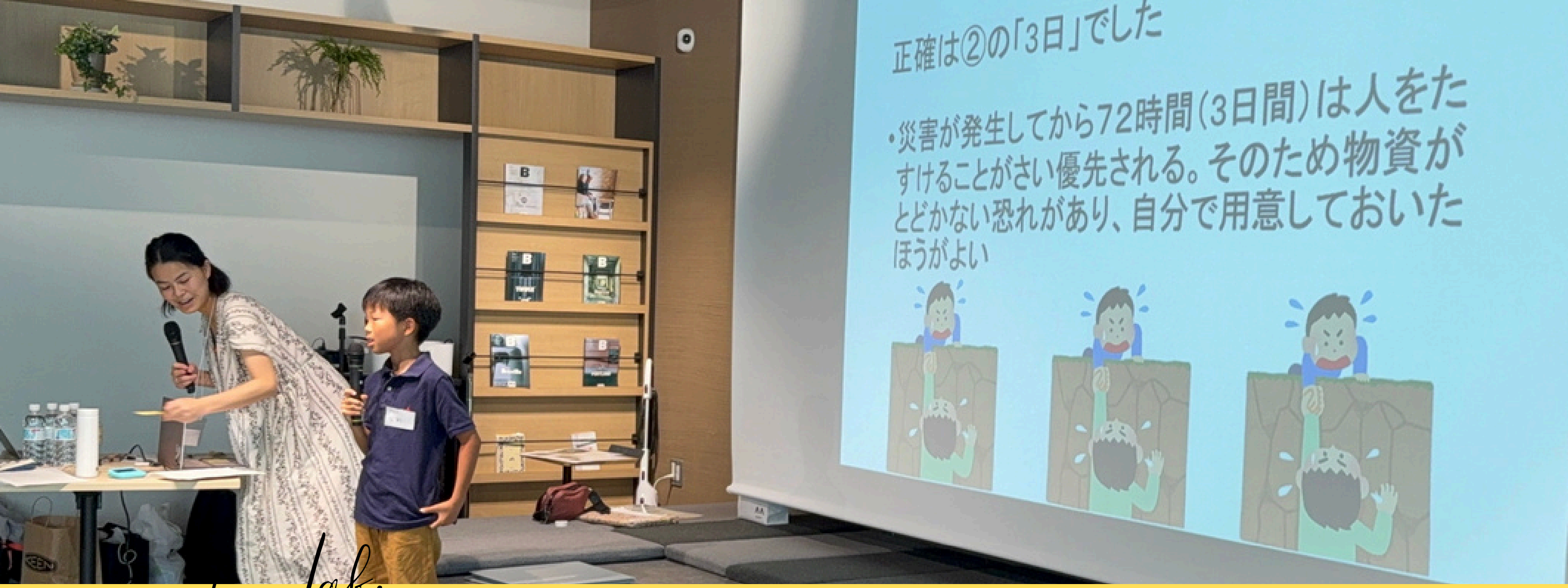
　大学院生の大内深雪さんによる「やさしい日本語」での進行、避難所で使えるやさしい日本語への言い換えワークを通して、わたしたちをつなぐ「ことば」を考える時間を設けました。また、外国人参加者（リピーター）が行った各国の災害事情や防災学習の取り組みの紹介では、あえて留学生の母語で話してもらうことで、参加者らが言語的マイノリティとして日本で生きる方たちの気持ちを体感できるきっかけとしました。

　最後に、実際に被災した方の経験談をスタッフがやさしい日本語に書き換えて作成した「あのひあのときカード」をもとにして、印象的だったことや伝えたい場面をレゴで制作するワークでは、災害のリスクや備えについて、グループで共有し対話する機会を持ちました。

　参加者からは「“あのひあのとき”の話をレゴで制作する過程を通して、妊娠中や子どもが感染症にかかっている中で避難するという状況まで想像できていなかったと気づいた。もっと自分のこととして災害発生のシチュエーションを想像しないといけないと思った。」「やさしい日本語を学ぶことができたので使ってみたい」などの感想が寄せられました。次回は2026年7月20日（祝）にMIRAI CREA（広島大学）にて開催予定です。

ファシリテーター：大内深雪（広島大学大学院人間社会科学研究科博士課程前期1年）
運営協力：NGUYEN KIM HOANG・朱彤・BAZARKULOV DENIS・守あすか
主催：小口研究室、ひがしひろしま防災×まちづくりプロジェクト
指導教員：小口悠紀子（広島大学大学院人間社会科学研究科日本語教育）
お問い合わせ先：koguchiy@hiroshima-u.ac.jp
＊本活動は「学生チャレンジ活動応援補助金」の助成を受けて実施しました





Kogichi Lab.

LEGOで考える災害に強いまち

ーサバイバル博士の挑戦状＆理想の避難所づくりー

2025年7月5日（10時-12時）@MIRAI CREA, 広島大学　開催報告

「もしも、のためにできること」をモットーに東広島市で年に２回開催している本イベント。リピーターの子どもたちから「自分たちもなにかみんなのためにやってみたい！」と声が上がったのをきっかけに、今回の新企画が生まれました！

自分たちで調べてきた防災関連のクイズを出し、会場を盛り上げてくれたのは、第一回目のイベントからリピーターとして何度も参加してくれている3名の「サバイバル博士」（なお博士・せき博士・はぎ博士）たち。博士たちの発表では、雷や竜巻など多様な災害から命を守るための豆知識、実際の避難バッグの重さを体感できるように準備された小道具、大阪万博で聞いてきた未来の災害対策の話など、参加者が災害を自分ごととして捉えられるような工夫を凝らしてくれました。スライド作成の過程では、大学生・大学院生スタッフと共に、著作権について気をつけたり、日本語非母語話者や小さな子どもにもわかりやすいスライドづくり苦戦しながらも取り組んでくれました。参加者から実践者へ、コミュニティが育っていく様子を嬉しく思います。

今回、地元企業に勤める外国人住民の方のご参加も多く、インド、ベトナム、スペイン、インドネシア、中国等出身の外国人住民の皆様のほか、東広島市だけでなく、広島市、島根県などからもご参加いただき、65名もの方にご参加いただきました。0歳から60代まで多世代で災害リスクや防災について話し合えたのも印象的でした。

ファシリテーター：松澤咲陽子・大内深雪（広島大学大学院人間社会科学研究科博士課程前期1年）　運営協力：鈴木拓馬・NGUYEN KIM HOANG・朱彤・呂博一・小山絵里
サバイバル博士：石原直（小学4年生）、関善道（小学3年生）、小口萩道（小学1年生）
主催：小口研究室、ひがしひろしま防災×まちづくりプロジェクト　指導教員：小口悠紀子（広島大学大学院人間社会科学研究科日本語教育）お問い合わせ先：koguchiy@hiroshima-u.ac.jp
＊本活動は「学生チャレンジ活動応援補助金」の助成を受けて実施しています